

## 研究・教育の能力構築のためのアプローチに関する宣言：（日本語仮訳）

### 背景

研究・教育における能力構築は、グローバルな研究システムにおける全ての関係者にとって重要な事項である。各研究システムの具体的な背景事情や多様性を理解し、それが国際協力にどのように影響するのかを理解することは、効果的な研究・教育上の能力構築をグローバルに行うために不可欠である。

研究・教育の能力構築、特に低中所得国のそれは能動的なプロセスであり、研究ニーズを特定し、研究を委託・実施（研究上の連携を含む）し、研究成果を伝達し、研究成果が現場や政策レベルで活用されることを保証するような国レベルのシステムを開発することを伴うものである。

重要なのは、世界の研究支援機関が国・地域・そしてグローバルなシステムの中で研究・教育の能力強化、特にデジタル接続性に向けて積極的に活動し、個人と組織的な能力の両方を強化することを目指した行動を取ることである。

このため、グローバル・リサーチ・カウンシル第4回年次会合の参加者は、研究・教育の能力構築のための主要な要素として、以下に掲げるアプローチをグローバルな研究コミュニティにおいて共有する。

### 研究・教育の能力の構築のためのアプローチ

#### 協力・パートナーシップ・ネットワーク

様々なパートナー間の真の公平なパートナーシップは、能力強化のための主要な課題である。GRC参加者は、相互に有益なパートナーシップの確立や既に成功しているネットワークを利用することを通じて、組織や個人の能力を伸ばすことを目指すべきである。この文脈で、強固な能力開発のアプローチを研究基盤やネットワーク、卓越拠点(COE)などに統合させ、これらの資産への幅広いアクセスの向上・共有のための条件を定めることができるよう、GRC参加者は他の行政庁や諸機関と協働することを検討すべきである。

#### 研究管理に関するグッドプラクティスの共有

グッドプラクティスを共有することは、GRC参加者の組織的な能力構築の上で重要なインパクトを有する。GRC参加者は、例えば研究管理事務に関する全ての面にわたる活動についてのグッドプラクティスを共有するためのプラットフォームの開発などの、経験を共有し互いに学び合うための効率的な方法を追求すべきである。研究公正は、研究管理の実務における重要

な要素である。これらの共有のための活動の結果として、グッドプラクティスに関するデータベースを創出することも考えられる。

### **研究・教育能力の持続可能性を確保するための「経路」全体に渡る支援**

研究者や教育者の強固で多様な「経路」が継続的に確保できるよう、GRC 参加者は各国やグローバルなレベルにおいて新進の研究者が多様なキャリアパスの過程を通じて科学的探求や教育に取り組むことを奨励するような、グッドプラクティスを共有するよう一致して取り組むべきである。

「未来の形成：次世代の研究者の支援」宣言(2014)に立脚しつつ、GRC 参加者はキャリアにおける様々な段階において研究者を引きつけ、つなぎとめるため、教育・訓練・キャリア形成に関する持続可能な様々な支援方策の提供を保証すべきである。GRC 参加者は教育・研究関係者との適切な連携関係構築に努めるべきである。

### **能力開発に向けた具体的な行動**

GRC 参加者は、研究・教育の能力強化を目的とした一連の自発的活動に、国レベル、地域レベル、グローバルレベルで取り組むことも考えられる。具体的な活動には以下のものが含まれる：

1. 研究支援機関によるシンポジウム：複数の研究評議会が主催する具体的な研究管理の課題に関するワークショップはグッドプラクティスの共有を促し、キャリア初期段階の研究者を育成し、世界の発展途上の研究支援機関を支援することになる。
2. 職員交流プログラム：研究評議会に雇用されているプログラムマネージャーや実施部門スタッフのキャパシティ向上を助けるための、短期間の職務訪問や職務訓練を行うことによって、様々なモデルや実務に触れる機会を助長できる。
3. 組織的カップリング：研究マネジメントに関する組織的な能力構築のための方策をより持続的な形で実施するため、先進的研究支援機関と発展途上の研究支援機関の連携を模索すべき。
4. コミュニケーション研究：研究が能力構築に与える改革の力を積極的に宣伝するため、研究支援機関は前向きな研究成果を一般市民や政策決定者に対して効果的に伝達していくためのプラットフォームを開発し、共有することができる。